

2025 年度

一般社団法人 社会福祉経営全国会議

管理職養成学校

—第 5 期総括—



一般社団法人 社会福祉経営全国会議

543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6 - 902

TEL:06-6772 - 1360 FAX:06-6772 - 1376

E-mail:jimukyoku1@f-zenkoku.net

社会福祉経営全国会議 第5期 管理職養成学校 講義一覧

回	日時と場所	テーマと内容
開校式	2025年8月21日(木) 14時～17時 Zoom 配信(会場:こぼと会)	<ul style="list-style-type: none"> ■茨木範宏 社会福祉経営全国会議会長 挨拶 ■垣内国光 管理職養成学校校長 挨拶 ■管理職養成学校受講生への期待 受講生オリエンテーション 第4期生からのメッセージ(梅津隆夫・梶村智美)
第1回	2025年9月25日(木) 10時～17時 Zoom 配信(会場:こぼと会)	<p>「管理職に求められるもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 垣内国光氏 明星大学名誉教授・多摩福祉会理事 管理職養成学校校長 ■プレゼン、グループワーク
第2回	2025年10月24日(木) 10時～17時 Zoom 配信(会場:こぼと会)	<p>「社会福祉法人のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 茨木範宏氏 社会福祉経営全国会議会長・大阪福祉事業財団理事長 ■プレゼン、グループワーク
第3回	2025年11月20日(木) ～21日(金) 現地参加 京都与謝野町 よさのうみ福祉会 会場 夢織の郷 シオノ鋳工 やすらの里	<p>「法人の組織運営について」 一泊研修、フィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 青木一博氏 よさのうみ福祉会理事長 同 藤原さゆり氏 よさのうみ福祉会 ワークセンター花音 管理者 同 塩野浩士氏 株式会社シオノ鋳工代表取締役 ■施設等見学、プレゼン、フィールドワーク
第4回	2025年12月18日(木) 10時～17時 Zoom 配信(会場:こぼと会)	<p>「財務分析と事業計画」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 山本匡人氏 三島皓史郎氏 藤原康平氏 (株)大阪中央会計事務所 税理士 ■プレゼン、グループワーク
第5回 修了式	2026年1月29日(木) 12:30 受付 13時～17時 Zoom 配信(会場:こぼと)	<p>「卒業発表、中長期事業計画」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■プレゼン、グループワーク ■修了式、修了証授与 ■垣内国光 管理職養成学校校長 式辞 ■茨木範宏 社会福祉経営全国会議会長 式辞 ■粟津浩一氏 アイアイハウス 理事 次世代を担う管理職へのメッセージ
アフター フォロー 講座	2026年4月24日(金) 14時～17時 会場 たかつガーデン	<p>「中長期計画具現化の達成に向けて 今後の見通しと決意を語ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 「管理職」の使命を考える 管理職養成学校校長 垣内国光氏 ■プレゼン、グループワーク

◆2025 年度 管理職養成学校 総括集 もくじ◆

1. 社会福祉経営全国会議第 5 期管理職養成学校を終えて
2. 管理職 養成学校 各受講生ゼミ活動報告
ゆいまーる
BTF
NOBISHIRO
チームわくわく Dream☆Diary
3. 各受講生感想文(全課程を通して)
4. 第 5 期受講生名簿
5. ディプロマポリシー
✿ 卒業写真

1. 社会福祉経営全国会議 第 5 期管理職養成学校を終えて

管理職養成学校事務局 関口奈緒美／五藤 清子／仁木 悟
伊藤 輝人／萩原 哲平／吉川 継史
寺田 恒／西田 健太／黒田 博美

2025 年 8 月 21 日の開校式から 2026 年 1 月 29 日の修了式までの半年間、第 5 期管理職養成学校がおこなわれ、「権利としての社会福祉」を担う法人の管理職として学びを深めました。

24 名の半年間の第 1 講座から第 5 講座までの航海をここにまとめます。

管理職養成学校の目的

- ① 権利としての社会福祉・社会保障の追求と事業の推進を目指す、社会福祉の担い手を育成します
- ② 見極める力、見通す力、戦略を組み立てる力、実行する力を重視し、管理職に求められる知識・技術・資質を育てます

I 概観

次世代の管理職育成は、全国会議の会員法人共通の課題であり、管理職養成学校に期待される声も多数いただくようになりました。

受講される方たちの意識も、次を担うであろう心意気を感じられる様子が、プレゼンテーションの中身やグループワークの中での言動からでも感じられます。

それでも初めて顔を合わせる同級生との「学校生活」に、緊張感が高まります。8 月の開校式までには、4 つのゼミに分かれて「オリエンテーション」をおこないましたが、開校式では、受講生の皆さんは緊張の面持ちのままだったように見受けられました。第 5 期は初参加の法人からの受講生が多かったことも特徴でした。

管理職養成学校で獲得すべき力を明記した「ディプロマポリシー」の説明や、「学校での過ごし方」での自主ゼミでの復習と予習の大事さの説明に、「がんばりたい」という気持ちと「不安」が入り混じった、そんな様子が受講生から伝わった学校のスタートでした。

これから事務局側も受講生をどうサポートしていこうか、お互いに手探り状態で始まった第5期管理職養成学校。

このあとの1月29日までの学びの様子は、第2節で振り返ってきたいと思います。

II 各講座の振り返り

第1講座

テーマ:「管理職に求められるもの」

講師:垣内 国光氏

講座日:2025年9月25日

第1講座は…

1. 管理職に求められるものを講義とグループワークを通じて共有する
 2. 自分自身を客観的に分析し、現職場や法人の中の管理職としてどのような役割を担っているか、課題は何かを認識し、どう変化していきたいかを明確にする
 3. 管理職として必要である『わかりやすく伝える』『理解を促す』トレーニングとする
 4. 社会福祉経営全国会議の会員である管理職の地域、法人、分野を超えた交流の場とする
- 以上、4点をねらいとしています。

受講生にとって初めてのプレゼンテーションテーマは「管理職としての私を語る」です。管理職としての役割は何か、どんな管理職が求められるのかを語ります。3分という限られた時間の枠で、管理職は「職員集団を作れること」「視野の広い管理者」「人間性・人間力豊かで職員の支えとなれる人」「利用者さんや職員にしっかり寄り添える人」と自分の弱みや強みをしっかり分析して発表しました。開校式前からすでにゼミ毎に何度も自主ゼミが行われていて、その中でお互いに評価・議論していた成果が見え、いずれのプレゼンもしっかりと練り上げてきていることがうかがわれました。例年よりも制限時間内で、発表できた方が多かったプレゼンとなりました。

午後からは、「福祉経営の管理職に求められること～民主的経営管理試論～」というテーマで、明星大学名誉教授、社会福祉法人多摩福社会理事の垣内国光学校長からの講義です。ご自身の法人での経験もお話して下さいました。今年は垣内先生のオリジナルテキストを事前に自主ゼミで討論し、感想や質問を持ち寄ることも提案され、さらに講義の理解につながりました。

まず、社会福祉の公益性や民主的経営についての問題提起があり、そのうえで管理者のあるべき姿が深められていきました。また管理監督者に必要な能力は何か…「組織のパフォーマンスを最大化する人」「自分の頭で考える人」「提案する人、揺り動かす人」「積極的に外に出る人、出す人」「仕事を振る人」「器量のある人(姿勢)」「後継者育成ができる人」という7点を挙げられました。講義の中で、「ニーズを耕すことも福祉、ニーズに応えられず葛藤することも福祉」で、善意と情熱に頼らず、科学的根拠をもった組織が不可欠であ

り、そのために私たちは「クールヘッド&ウォームハート」で仕事をする必要性が強調されました。

管理職として、あるいはこれから管理職を目指す者として悩み葛藤していた受講生には心に響く講義でした。また受講生が初めて仲間のプレゼンを聞き、リアルな声や一人一人の思いに触れ刺激を受け、「自分に足りないものが見え、自分の明るい未来の姿が見えた」と感想を持った受講生でした。

講義の最後には、尾崎新氏の『揺らぐことのできる力～ゆらぎと社会福祉実践』(1999年 誠心書房)を紹介されつつ、「ミッションをもち、職員に誠実であれば揺らいでもいいんだよ」という先生からのメッセージは、受講生の胸に刻まれ、今まさに揺らぎの最中にある受講生にとっては自己肯定感を持つことができ、魅力的で力量ある管理者になるための基礎知識を学ぶことができました。

養成学校のスタートにふさわしい充実した内容となりました。

第2講座

テーマ:「社会福祉法人の在り方を学ぶ」

講師:茨木 範宏氏

講座日:2025年10月23日

<午前の部> プレゼンテーション

第2講座のテーマは『「わが法人の経営理念」と「地域で果たす役割について」』です。事前準備として「法人のトップ或いはそれに近い方からお話をうかがう」ことをお願いして、各法人の皆さまに協力して頂きました。

迎えたプレゼン本番では、3分間で地域住民対象に法人を語り、地域で果たしている役割を説明する、というテーマで発表、1枚のパネルに伝えたい想いを詰め込み、自分の言葉で地域の方々へ伝える素晴らしいプレゼンテーションが展開されました。

講評では、2つのポイントについて話されました。①受講生がそれぞれ法人の歴史を学んだことが、しっかり語られて伝えられているか。②地域とのつながりについて、具体的な姿や風景で目に浮かぶような内容か。大事なことは自分の言葉で語ること。そのうえで、今回のプレゼンでは、地域での取り組みが各受講生から幅広く伝えられ、将来の展望も語られていた！社会福祉法人は目の前のことだけを考えている、地域貢献していない、というバッシングに対して、そんなことはない！と堂々と言えるプレゼンだった！と評価がありました。また、社会福祉法人〇〇(法人名)の●●(氏名)と伝えることを今後も意識して、我々は社会福祉法人という人格を持った組織であること。また、法人の名称についても、それぞれに由来があり大切にしてほしい。それぞれの地域で各法人が果たしている役割が実感でき、なぜ法人を立ち上げたのか、ということも良く分かった。先輩達など当時関わった方の願いが形になってできたのが社会福祉法人で、それが何なのかを考える良い機会となったという講評を頂きました。

<午後の部> 茨木ゼミ「社会福祉法人の在り方を学ぶ。社会福祉法人とは～その強みを活かして」

我々社会福祉法人の立ち位置を歴史的に今日的に捉えるという目的で以下のお話がありました。

◇社会福祉法人の経営は今どうなっているのか

社会福祉法人の3割～4割が赤字経営で、中でも介護分野が特に厳しい状況です。障害分野にも、多くの営利法人が参入してきています。

人材不足への国の対策は不十分で、処遇改善に充てられるべき公費が人材産業に流れています。そんななか、我々は社会福祉法人と営利法人の違いをどのように伝えていったらよいのでしょうか。その問題意識を共有して講義は次に移ります。

◇いま国が社会福祉法人に求めていることは

人手をかけず効率よく運営し、生産性を上げる仕組みが福祉現場に当てはまるのか？その疑問を我々は抱えつつも、国が社会福祉法人に求める（ICT活用、法人の共同化・大規模化など）枠組みで事業を進めています。大規模化の仕組みとして、ハードルの高い合併や事業譲渡ではなく、その手前の社会福祉連携推進法人という形をつくりました。また、「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方検討会」では、介護分野以外に障害・保育の分野もあげられて、国は社会福祉法人をどう活用するか、営利企業は社会福祉法人をどう取り込むかと、まさに、社会福祉法人が売り手・買い手となってしまっている実態を学びました。

このような状況に対して、我々は法人の規模に関係なく、それぞれの強みを活かした「ゆたかな連携」が必要で、社会福祉連携推進法人の検討チームを立ち上げて、研究・検討していく展望が話されました。

◇そもそも社会福祉法人とはなにか、どんな性格をもつのか

近代社会において、「社会福祉法人」が憲法89条との関係でどのような根拠を得て設立されたのか、大阪福祉事業財団の歴史にも触れながら解説されました。社会福祉法人はその公共性と非営利性を担保に存在してきましたが、昨今では公的規制は変わらずに、国の支援（助成）が徐々に削られるという厳しい状況になっています。

◇この30年（社会福祉基礎構造改革）で何が変わったのか

95年勧告は50年勧告を否定し、風向きは大きく変わりました。社会福祉基礎構造改革では措置制度から利用契約制度化、営利企業の参入促進など、国は公的責任を放棄してきました。自己責任論や軍拡路線、社会福祉法人制度改革へと続くバッシングのなかで、社会福祉法人が営利と非営利の狭間に置かれ、準営利企業体へと変容されてしまう歪みが生じてきました。

◇社会福祉法人制度「改革」とは何だったか

社会福祉法人や生活保護受給者に対するバッシング、昨今の外国人問題などは、政府が制度を変えていく時に行うネガティブキャンペーンの手法だと学びました。競争原理の中に組み込まれ、地域における公益活動の義務化など、互助による慈善型福祉の支援を強いられるという厳しい状況の中、我々はどこに向かうのかということが重要だということです。

◇社会福祉法人の強みを活かす

講義を受けて、最後に「社会福祉法人の強みとは？」をテーマにグループワークを行いました。営利法人との違いにも着目しながら、各ゼミで講義の中身が整理され、今後の展望を見出す論議ができたことが、各グループの報告からも伺えました。

そして、社会福祉法人の強みとして4点にまとめられました。

- ①公的福祉の担い手として、公益性・非営利性を貫いて事業を行う存在であること
- ②戦後の歴史と地域の福祉要求運動の中で築いてきた民主的な経営を目指す組織であること
- ③地域の福祉課題に向き合う活動と共同をつくり、制度化させてきたこと
- ④保育・介護・支援の専門性を高め、地域に信頼され、人として育ちあえる職場であること

最後にまとめとして、新内閣も発足してますます情勢は厳しいですが、民主的な経営力を高め、地域課題に向き合い、社会福祉法人の強みを活かして情勢を押し返そう！そのために、自法人の成り立ちと実践を確信にすることが重要で、社会福祉法人だからできるということを事業や実践で示していきましょう。社会福祉法人の経営のカギは、①権利を守る社会福祉法人が認知され、②地域の福祉を守りつくる存在としてその目線を持ち、③実効的な取り組みができるかどうかです。今日の学びをどのように活かしていくのか、またいっしょに考えていきたいし、全国会議のなかで具体的に実践していきたい。という心強い言葉で第2講座は締めくくられました。今後、受講生の皆さんが各地域で強みを活かした福祉実践を展開してくれることが期待できる第2講座でした。

第3講座

テーマ:「組織運営を学ぶ」

講師:青木 一博氏

講座日:2025年11月20日~21日

第3講座は京都府与謝野町で1泊2日の行程で実施されます。養成学校のカリキュラムのうち、唯一、対面方式で実施されるプログラムであり、受講生が交流を深める上でも重要な機会となっています。

一日目は1泊研修の目玉となる「異業種の経営者から学ぶ」講座は、5年連続で(株)シオノ鋳工社長の塩野浩士氏です。本社の工場見学では、危ないので外から見るだけですが普段目にするののない鋳物の作業工程を見たり、休憩所にも休日取得日数や自己紹介シートなどが貼ってあったり等、なかなか私たち福祉の職場では目にするのが少ない掲示物もたくさん見られました。その後、新工場(ラボ棟)へ移動し、塩野浩士氏の講義です。リーマンショックで経営が行き詰ったときに「経営理念」を社員と考えたり、鋳物工場という熱い現場で体調を崩す社員が増えたことをきっかけに給食を提供したりと、社員を大事にする思いが満ち溢れています。仕事以外の関係づくりとして「ヒロシの部屋」と名付けられた飲み会や三輪車レースの取り組みなど、社員が一体になれる取り組みも盛りだくさん。又、塩野社長は「丹後地域を活性化させたい」という思いも強く持っておられ、斬新な発想やアイデアでありながら、福祉現場で全部は真似できないけれども参考になるお話をたくさん聞かせていただきました。塩野社長のような「社員思いの魅力的な管理職」に私たちもなりたい、そう思える講義でした。

「リフレかやの里」の農産加工場では、ジュースなどに農産物を加工している工場でなかま(利用者)が仕事をしている様子を見たのですが、「インフルエンザの予防接種」だったとのことで、私たちに仕事を通して感じていることを書いたメッセージを矢嶋管理者が代読してくれました。「仕事」は大変だけどやりがいをもっていることが伝わってくるメッセージでした。

そして場所を「夢織の郷」に移動し、「働く中でたくましく」と題して、藤原管理者の講義を聞きました。藤原管理者が無認可作業所での新人職員時代に、なかまの数倍の給料を自分もらっていることに疑問をもったことを原点に「働くことを生活の柱」に、あくまでもなかまにとっての仕事が「目的」ではなく「手段」であることを大切にしながら「高い給料」と「やりがいのある仕事」「地域になくてはならない存在になること」という藤原氏の「思い」を熱く語っていただいた講義でした。

講義のあとは、1 日目の最終プログラムのプレゼンテーション。プレゼンテーションは「組織運営」をテーマに自法人がどう地域とかかわっていくのか、そのために職員組織をどうするのか、という内容を自主ゼミを通して考えぬいたプレゼンを 3 分で語ってくれました。リアルで緊張した！という声もありましたが、リアルの方がうまくいった！という声も多かったです。「対面の強み」が出た時間となりました。

1 日目の過程が終了後、宿泊場所の「かや山の家」に移動して、美味しいごはんやお酒を頂きながらの夜の懇親会。ゼミにわかれて、大いに盛り上がりました。その後は第 5 講座で発表する「ゼミ発表」の撮影をしたり、2 次会・3 次会と夜遅くまで交流が続いたり…。長い 1 日でしたが、受講生同士の連帯がより深まり合う与謝野町での夜のひと時となりました。

2 日目は、場所を地域共生型福祉施設「やすらの里」に移し、第 3 講座のメインテーマである「組織運営を学ぶ」について、よさのうみ福祉会の青木博一理事長より講義です。講義に先立ち、開催場所である「やすらの里」の見学をし、同一敷地建物内で異業種の 4 つの法人が協働して運営しているという、全国的にも大変珍しく、貴重な施設を各法人の事業への思いも聞きながら貴重な見学ができました。「やすらの里」内の喫茶店、敷地内清掃、施設内の食事作り補助、行政委託の独居高齢者等宅配弁当事業等に利用者が従事していて、「やすらの里」利用者である、子ども・高齢者・障がい者と地域の方が自然と敷地内外で交流できている素晴らしい施設です。国が強制する地域共生ではなく、本来の意味での地域共生の姿がここ「やすらの里」には存在していることを実感できました。見学後は、青木理事長による講義「法人の福祉経営実践と組織運営」です。講義の前半は、よさのうみ福祉会の福祉経営実践の経過のお話で、「リフレかやの里」という倒産した施設の再建に福祉会として、なかまの仕事保障のためにも関わろうと決意し、農福連携を取り入れて地域のニーズにも応えるかたちで事業を実施してきたこと。また、「やすらの里」ができる過程、福祉会として様々な事業を展開していく過程、そこには与謝野町における、福祉事業者の「福祉力」、住みよい町を願う地域住民の「自治力」、そして公的な役割と責任を発揮できる与謝野町の「行政力」、という三位一体の基盤があったからこそ現在の姿だと学ぶことができました。当時の施設づくりの過程でたいへん悔しい思いをしたことを涙ながらにお話して下さる青木理事長の姿は受講生の皆さんの心に響き渡りました。講義の後半は、与謝野町における長年の地域づくりの歴史、養護学校づくり運動から始まり、その後「よさのうみ福祉会」の設立、理念づくり、そして理念に基づく福祉会のより良い組織運営づくりの取り組み等、利用者も職員も大切に、良かったところも悪かったところも包み隠さず青木理事長から語られる講義の内容は大きな学びとして受講生の皆さんに吸収されました。

受講生 24 名全員が学びと交流の機会を持つことが出来た意義のある 2 日間となり、それぞれの受講生が与謝野町という地域を通じて、自分の地域にどのように持ち帰るかを考えるきっかけになったと考えます。何より実際に顔を合わせての交流は受講生同士の絆を深め、学校終了後も途切れないような関係性が築ける機会となりました。又、8 年間にわたり、この管理職養成学校第 3 講座のフィールドワークを「よさのうみ福祉会」さんが引き受けてくださりました。与謝野町での学びを活かして、権利としての社会福祉経営実践を展開・奮闘して活躍している福祉関係者が、全国津々浦々で数多くいることでしょう。青木理事長含め福祉会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。今後の課題としては、来年度から一泊研修の場所が変わります。タイトなスケジュールになるとは思いますが、京都で積み重ねてきた経験を鹿児島に生かせるような研修行程の検討が必要です。

第4講座

テーマ:「財務分析と事業計画」

講師:山本 匡人氏

講座日:2025年12月18日

「卒業発表・中長期計画」は、職場プロジェクトチームを編成し、自組織を分析した上で中長期計画を作成し発表します。第4講座は、その中の「財務」にテーマを絞ってとりくみます。

自事業所(自法人)の財務分析結果は、管理者として必ず理解しておかなければならないものです。自事業所の財務を把握することは、将来に向けて事業展開を考える上では必須事項となります。第4講座では、財務分析ワークシートとSWOT分析の手法を取り入れて現在の自事業所の財務状況を分析した上で、運営の特徴を把握し、自施設(自法人)の事業計画を打ち出すまでを学びます。

事前に財務管理研修(基礎編・応用編)で基礎的な会計知識や財務の視点を学びました。財務計画を立てるために、職場でプロジェクトチームを組織し、SWOT分析、SWOTクロス分析をおこなった上でBSC(事業計画)を事前課題としてとりくみました。この分析と事業計画の作成を、現場職員を含めたプロジェクトチームで行うことは、民主的運営に関わる大事な場面であると、山本先生(第4講座講師)は話されています。

当日のプレゼンテーションは、「職員会議で自事業所の財務分析と事業計画を説明し、職員の合意を得る」という設定で行われました。数字を分かりやすく示すだけでなく、「なぜこの計画が必要なのか」「どのように進めていくのか」を丁寧に伝えようとする姿が多く見られました。実行を見据えたプレゼンが多かったことが印象に残りました。また、計画を職場の仲間が「一緒に頑張ろう！」と主体的に前向きに進めていけるようなプレゼンとなることが大切であることを改めて実感しました。

講師の山本先生によるプレゼン講評とまとめの講義が行われました。「誰に、何を伝えたいのかを明確にすること」「比較することで初めて強みや弱みが見えてくること」など、プレゼンの基本的な視点が示されました。また、強みとは単なる特徴ではなく、他者と比べて優位性があることであり、数値や客観的根拠を伴うことの重要性についても解説がありました。

講義では、SWOT分析およびBSC(バランス・スコアカード)の作成ポイントについて、具体例を交えながら説明が行われました。「強みと弱みは紙一重であること」「人をどう捉えるかが法人の姿勢を表すこと」など、受講生が自事業所の分析を見直すための視点が多く示され、戦略やビジョンと結びつけて考える重要性を学ぶ時間となりました。

後半は、本講座のメイン企画である総合問題に取り組みました。架空の社会福祉法人が運営するA保育園の決算書をもとに、数字から事業の課題を読み取り、経営改善の方向性を検討しました。

「なぜ年度途中で園児の転園が増えたのか」「職員の退職が続いている背景は何か」「園長一人で事務と管理を担う体制に無理はないか」など、数字と現場の出来事を結びつけながら、自由な発想で意見が出されました。

改善策の検討では、「計画的な財務管理の必要性」「人材配置や業務分担の見直し」「園の強みを活かし、外部に発信していく重要性」など、具体的な提案が多く挙げられました。

数字を読むだけでなく、その背景にある運営や人の動きを想像しながら考えることで、経営を見る視点が深まったのではないのでしょうか。グループワーク後の全体振り返りでは、山本先生から、決算書の数字をどのような視点で読み解くと課題が見えてくるのかについて、丁寧な解説がありました。日常的に会計・財務に

関わっていない受講生にとっても、現場の出来事と会計数字を結びつけて考えることの大切さを実感できる、実践的な学びの時間となりました。

第5講座

テーマ:「卒業発表・修了式」

講座日:2026年1月29日

第5講座は3部構成になっています。受講生の学びの集大成として、これまでの成果を観ていただくため、送り出して頂いた各法人の推薦者・サポーターの皆さまや講師の皆さまにも多数ご出席いただきました。

第1部:卒業発表

開校式から始まり、第1講座で「管理職としての役割」、第2講座で「社会福祉法人の歴史と課題」、第3講座で「組織運営」、第4講座で「財務管理と事業計画」について学んできました。それらをふまえて、職場の仲間とプロジェクトチームを作り、SWOT分析・SWOTクロス分析・BSCを再考し、自法人・自施設の「中長期事業計画」を作成し発表しました。日々の業務と並行しながらの話し合いは困難なこともありながら、職場の仲間の支え、自主ゼミでの交流による学びの蓄積で、チームを組織し、意見を引き出し、考えをまとめ、意図を伝えながらいきいきと語る姿に半年間の成長を感じました。養成学校での経験と培われた力・全国に広がるつながりは、今後の管理職としての大きな財産になると思います。

第2部:ゼミ発表

養成学校の特徴は、受講生が4つのクラスに編成されていることです。そしてクラスは自主的な研鑽を重ねる期待を込めて「ゼミ」として位置づけているのが最大の特徴です。このゼミが開校式前から自主ゼミという形でオンラインによってはじまります。この自主ゼミが講座と講座の間に複数回開催され、回を重ねるごとにゼミの仲間の絆が深まってきたのは言うまでもありません。講座の予習・復習はもちろん、自身の悩みも含めて大いに交流し、お互いに励まし合いながら切磋琢磨してきました。

ゼミ発表は、これまでの学びやつながりについて等をどのように表現するかはゼミごとに任されています。一人ずつ想いを語ったり、ここまでの軌跡を動画でまとめたり、寸劇を通して伝えたり、緻密に脚本を作成しドラマ仕立てにしたりと、創意工夫を凝らした発表となりました。

また、今期は特に「涙々あり、笑いあり」の発表となりました。この怒涛の半年間の濃密な歩みを振り返る中で、時に悩み躓きながらもゼミメンバーで支えあい乗り越えてきた日々が鮮明に思い出され、熱い想いが込み上げてくる感動的なゼミ発表となりました。まさに「学びの共同体」を具現化した集大成と呼ぶに相応しい内容であり、事務局一同も涙を堪えることができないほどでした。

第3部:修了証書授与式

最初に担任がゼミの特徴やエピソードを振り返り、一人ひとりの名前を読み上げられ、垣内学校長よりゼミ代表の各リーダーに修了証書が授与されました。(受講生には後日送付済)。「自ら志願した人、法人から推薦された人、それぞれ入学の動機は違うと思いますが、仲間となって修了する姿を見ることが出来て嬉しいで

す。今日の発表を法人や施設でどのように実践、検証し、訂正し、法人の発展に寄与するのか、それをまたお互いに検証できればいいと思います。私たちは日本の民主的な法人の福祉実践・経営の砦です。さらに発展させ、権利としての福祉を地域社会の見本となるよう実践をして行ってください」との式辞をいただきました。校長先生の万感の思いが詰まった式辞は卒業生にとって忘れられない、はなむけの言葉となりました。

続いて全国会議の茨木会長、送り出し法人を代表してアイアイハウス理事の栗津浩一様からの心温まる祝辞を頂きました。続いて受講生を代表の、みなと福祉会の村田明子さんから卒業の言葉が述べられ、「学びを続けられるか自身の大きな問題があり、不安でいっぱいだったが、講義を受け仲間がいたから卒業することが出来た」と感謝と感動の挨拶がありました。

最後に、第5期受講生 24 名が誰一人脱落することなく無事に卒業できたことは、学校事務局にとっても誇らしく大きな喜びです。日常業務に加えて養成学校での奮闘に敬意を表すると共に、学校事務局におきましても新たな学びの多い学校となったことに感謝いたします。

Ⅲ むすびにかえて

管理職養成学校では、第 1 講座から第 5 講座までの 5 講座がありますが、それぞれが単発的に講座をするのではなく、各講座の講師が「講師会」を 2 回おこない、講座への思いやねらいを共有しながら講座を組み立てています。各講座の先生方も、自分の前の講座がどのようなねらいや内容で終えたかを意識し、次の講座へどのように引き継いでいくかを意識していただいています。

そして管理職養成学校の 1 番の醍醐味ともいえる「ゼミ活動」が、講座と講座の間に、複数回「自主ゼミ」という形でおこなわれています。初対面の 6 人のゼミ集団が、半年間「卒業」という港に向けて一緒に荒波へと放り込まれ(受講生の方たちの表現です)、時に沈みかけたら、同じゼミ生で助け合う姿も見られました。また自主ゼミの中で、講座に向けての課題についてを話すだけではなく、権利としての社会福祉を目指す「同志」として語り合う姿も見られました。

私たち管理職は、もちろん事業を運営することが主ですが、子どもや障害のある人、高齢の方たちへの支援の課題だけではなく、事業所で働く職員を守っていくこと、また事業を運営するための「経営」のことも考えなくてはなりません。管理職でも悩みはたくさんあり、「揺らぎ」もあります。

この管理職養成学校では、自分自身を客観的にとらえ、どんな管理職像をめざすのかをイメージしながら、「社会福祉」「社会福祉法人」について学び、そして地域との連携や組織運営を学んで、さらに自事業所を運営するための「財務」を学ぶことで「5 年後、10 年後の自事業所、自法人」について、を計画しました。

自事業所、自法人の運営を考える上で、社会福祉制度を守るための視点は重要です。学校で学んだことや、自主ゼミで語り合い知りえたことなどを、今後も養成学校でつながった「なかま」が手をつなぎながら「権利としての社会福祉」を守るために活躍されることが期待されます。

さて、2026 年度は第 6 期となります。今まで 24 名の定員での運営をおこなってきましたが、来期からは 30 名の定員拡大を予定しています。学校のねらいはそのままに、養成学校での「獲得する力」また、学校の質を担保するツールとして作成したディプロマポリシーを維持、発展していくために、学校事務局集団も語り合い、学校の発展に寄与していきたいと思ひます。

今期もご尽力いただいた講師の皆さま、学校を支えていただいた会員法人の皆さま、そして卒業生の皆さまに感謝を申し上げます。今後ともお力添えをお願いしてむすびにかえさせていただきます。

2. 2025 年度ゼミ活動報告

A ゼミ「ゆいまーる」活動報告

<メンバー紹介>

	名前	法人	勤務先	人物紹介
リーダー	柴田 さゆみ	ピヨピヨの会	ピヨピヨ保育園	ずっと心に入り込む 沖縄の風でみんなを包む。私たちの自慢のリーダーです。
	草場 慎一	コスモス会	大橋保育園	みんな大好き草場さん。A ゼミが大爆笑するきっかけは、いつも彼でした。
	西垣 幸子	よさのうみ福祉会	みやづ作業所	この人無しでは始まらない。とにかくやってみる！の行動力で、ゼミの切り込み隊長でした。
	溝口 愛	エゼル福祉会	VOLO	誠実で芯をもって自分に、人に向き合う姿が、私たちの“道しるべ”でした。
	桂 幸子	秋篠菫会	あかね保育園	A ゼミの正捕手。どんな変化球もガッチリ受け止め素早く返球！
	小山 明日美	穂積福祉会	なかよしわんぱく保育園	素直でチャームング。真実を求め、深く知ろうと努力をする人です。
担任	西田 健太	多摩福祉会		芯は絶対逃さない。優しい笑顔で追い込んでくれる、熱い熱い担任でした。
担任	関口 奈緒美	ふたかみ福祉会		関口先生の飾らない笑顔と、あっはっはと笑う大きな声が、ゼミを明るく支えてくれました。
担任	黒田 博美	結い		数々の黒田語録が刺さりました。魅力を語るには言葉が足りない…Aゼミ一同、黒田先生の虜です。

<自主ゼミ日程>

- ・オリエンテーション 8月12日 17:00～
- ・第一講座に向けて(計3回) 8月28日(15:00～17:00)、9月12日(16:00～17:30)
17日(15:00～16:30)
- ・第二講座に向けて(計3回) 10月2日(15:00～17:45)、8日(15:00～17:30)
15日(16:30～18:00)
- ・第三講座に向けて(計3回) 10月31日(14:00～16:00)、11月4日(17:00～)
11日(18:00～19:30)
- ・第四講座に向けて(計3回) 12月3日(15:00～16:45)、9日(16:00～17:15)
16日(16:00～18:15)
- ・第五講座に向けて(計5回) 12月25日(14:00～16:00)、1月14日(16:00～19:45)
19日(16:00～18:45) 23日(15:00～)・27日(17:30～20:45)



<自主ゼミ内容>

各講座に向けての自主ゼミでは、予習した内容を出し合い、意見交流をしていきました。その中で「福祉とは」「職場での悩み」「人を育てるとは」「今の社会について」「政治について」…などといった話が熱く語られてきました。脱線していく話も全てが学びに繋がる貴重な時間でした。また、プレゼンの相談、意見交換にも時間を割きました。プレゼンを聞き合い、ゼミ生同士で意見し合う中で、自分の伝えたかった事が明確な言葉になっていきました。パワーポイントや Zoom の設定など機器の操作に自信がない所も、聞き合っただけでゼミの中で実際にやってみる中で習得していきました。A ゼミは、職場のみんなに協力してもらいながら、ほとんどの自主ゼミを勤務内に実施してきました。時間的な負担が軽減された事、職場の仲間の見える所で研修に参加する事で研修への理解につながった点が良かったと思います。



Bゼミ 「 BTF 」 ～bear the future～

ゼミ名BTFの由来

それぞれが“未来を担っていく人”であるということから、「bear the future」(＝未来を担う)の頭文字をつなげ「BTF」という名前になりました。

ゼミを振り返ると・・・

担任の萩原さんが、「ご当地グルメを教えて」これが私たちにとっては初めての課題でした。ところが、LINEに誰も返信しないそんなスタートでしたが、第1回目の自主ゼミではすっかり意気投合し、一ヶ月後にはオンライン飲み会を開催するまでとなりました。週1回の自主ゼミでは、課題や特にプレゼンの練習をみんなで深め合い、お互いに刺激をもらいながら進めていき、ゼミメンバーの存在の大きさを実感していきました。仕事の悩みも分かち合い、涙あり笑いありみんな本音で語り合った18回の自主ゼミでした。このゼミがなければ本当に学校を乗り越えることはできなかった。これからもこの関係を大切にしていきたいです。

ゼミメンバーのメッセージ

新城直世(ののかぜ保育園)

「できるか、できないかじゃない。やってみよう。」その想いだけを胸に、管理職養成学校への一步を踏み出しました。最初は必死でしたが、回を重ねるごとに学びの深さと仲間の存在が心地よくなり、前に進む力となりました。苦しい時も、この先に広がる景色を信じて歩み続けてきました。この経験は、私の管理職人生の大切な航海です。

佐藤慎次(あかしや共生苑)

泥船で彷徨っている私に、学ぶことを思い出させてくれました。面倒だと思っていた自主ゼミは、癒しと楽しみの時間へと変化していきました。仲間たちの豪華客船に遅れないように、泥船を漕ぎ続け、もう汗だくです。でも、みんなと出会えて本当に良かった。いつか追いつけるように学びを続けます。

福原友佳(紫竹アイアイハウス)

「やればできる！」養成校で学んだこと。養成校が始まる時は「できない」と思っていたけど、私ってこんな力があつたんだと再発見した。よくがんばったよ！って自分で自分を褒めてあげたいって強く思うと同時に、その頑張りは一人で成し遂げられなかったことと感謝の気持ちでいっぱいです。

松井智里(古志ひまわり保育園)

学んで 悩んで 笑って 時に愚痴って 楽しかったね ずっと頭から離れなかった課題
一人では越えられなかったこともみんながいたから頑張れました …ずっと前から仲良しだったようなこんな出会いがあるなんて

鈴木早紀子(あかねの虹保育園)

やると決めたら最後までやる。そう決めただけど仕事、育児、養成学校の両立は本当に本当にきつかったです。何度も涙を流しました。だけどここまでこれたのはBゼミの皆さんがいてくれたからです。一人じゃないと思えることがこんなに心強い事なのかと仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。この先、どんな困難も乗り越えて、前に前に進んでいきます。

富安示和子(やおぎ保育園)

すごいところに来てしまった！と後悔したこともあったけど、ゼミの素敵な仲間たちとの出会いが私をここまで導いてくれました。溺れそうになりながらも、どんな私も受け止めてくれたから前へ進むことが出来ました。仲間の「私たちにしか見られない景色を一緒に見ましょう！」の言葉を胸に乗り越えた航海。仲間との学びが私の保育人生を大きく動かしてくれました。





ゼミ名の由来

メンバーそれぞれの思いを出し合い決めていった。「愛」「挑戦」「絆」などの言葉をまとめ管理職養成学校という航海に対して前向きな思いも込め、計り知れない自分たちのノビシロを追い求めていこう！多くを学び蓄え、ノビシロを伸ばしていこう！という願いを込めてこのゼミ名にしていきました。♪おれらじゃけん のびしろしかないわ♪を胸に！！

メンバー：総リーダー／望月謙吾・ゼミ発表リーダー／南智子・講座司会／伊藤紀江・課題発表リーダー／鶴山祐子・Zoom リーダー兼ゼミ発表編集リーダー／伊藤奈美・講座司会／江村純子
(メンバー1人1人に担当を設け、自分の担当に責任をもって行っていった。)

担任：吉川継史・仁木悟



■ 自主ゼミ活動日 ■ (Zoom 14時～16時)

8/1・21

「早めに初 Zoom を行い、ゼミ名や LINE 交換をしてメンバーとの交流を深めた。個々に担当を決め、今ある不安や悩みや質問等を担任を交えながら2回の自主ゼミをした」

9/2・11

「アイスブレイクも含めメンバーと交流をはかりながら仲を深めていきながら、プレゼンに向けて練習や意見を交換し合っていた。担任から「笑い」と「哀愁」のキーワードをいただき自分らしくを大切に初のプレゼンに向けて練習を深めていった。」

10/3・14

「アイスブレイクも各メンバーで担当していきながら楽しい自主ゼミになっていった。緊張も少しずつとけていきメンバーの絆も深まり始めていった。数少ない自主ゼミだったが、計画を立てながら2時間の自主ゼミを大切にしながら、メンバーとプレゼンに向け、さらにノビシロをのばせていった。」

10/29・11/4 (Zoom 飲み会)・6・12・19 (現地飲み会)

「初顔合わせに向けて、わくわくしながら自主ゼミを行う。プレゼン動画を撮り LINE で意見を聞いたりしていきながら時間をうまく使っていた。メンバーのノビシロがぐんっと伸びていっているのを実感した。初の Zoom 飲み会も大いに楽しめた！！」

12/9・15、1/13 or 14 (どちらか参加)・27

「第4講座、第5講座に向けて自主ゼミは各施設での体制等(インフルやコロナ等)もあり全員が参加できないことも多くあったが、集まれるメンバーで集まりながら深めていった。参加日の関係でなかなか会えないメンバーもいたが当日のプレゼンでのノビシロが半端なく、個々の成長にまたもや驚かされた！！」

★卒業の一言★

最初は不安と期待でドキドキしていました。「本当に自分はできるのだろうか?」「やりきれんのだろうか?」と一人で悩んでいたことを今でも覚えています。そして、管理職養成学校の開校式が始まると「大航海が始まります」とさらに不安は募り「あ～もうだめだー!!」と思っていました。しかし、いざ始まってみれば、まずは「自分一人ではないメンバーがいる」ということを改めて自分は誰かに支えられながら生きているんだと実感しました。多くの悩みを話、多くの関わりやつながりが航海を本当に楽しいものにしてくれました。卒業し、1歩踏み出せたこと、今さらながら自分の勇氣にも頑張ったねと言ってあげたいです。この管理職養成学校で学んだこと、まだまだ自分のものになっていませんが、この学びは必ず自分を成長させ「社会福祉」という職種の壁を超えて、みんなでつながりあって考えていくことに気づかされました。すべては共に生きる「仲間」の為に・・・これからも考え感じ続けていきたいです。面白がって、わくわくを栄養に！本当に楽しい学校でした。メンバーをはじめ担任の皆さま。本当にありがとうございました。

Dゼミ 「チームわくわく Dream☆Diary」



☆メンバー紹介(リーダー村田からの愛ある紹介付き)☆

村田明子 (みなと福祉会) マイワールド持ちドリーミーガールの頼れるリーダー (ゼミメンバーより)

伊藤鉄也 (大阪聴覚障害者福祉会) おしゃべりな財務の鬼 とっても優しい副リーダー

佐藤浩子 (あゆみ会) アナウンサーみたいな癒しの声 すぐラインくれるから大好き

藤本有希 (はとのさと福祉会) ハスキーボイスの情熱屋 まわりをよく見ていて、いつも褒めてくれる

石橋雅人 (いずみ野福祉会) やさしさの塊 触ると壊れそうなくらい優しいお豆腐ボイス

灰谷理絵 (みつばち会) 冷静な理論派 だけどおちゃめでかわいい 動物好きの心優しい保育士

☆担任 Special thanks ☆

伊藤輝人 (名古屋キリスト教社会館) 優しい顔で熱血アドバイス お酒が入るとさらに熱くなる

五藤清子 (さざんか福祉会) いつもひまわりみたいな笑顔でたくさん笑ってくれる みんなのお母さん

☆ゼミ名の由来&ゼミの強み☆

ゼミ名は好きな言葉「わくわく」、D から始まる言葉「Dream」「Diary」…とメンバーから出た意見をすべて採用! 「誰一人の意見も取りこぼさない」やさしさの詰まったゼミ名になっています。名前の通りやさしくて穏やかで温かい雰囲気のゼミですが、同時にこども、利用者、職員への熱い「思い」も持っていて語り始めたら止まらない(主にリーダーと副リーダーが止まらない…) みんなで褒めあい、励ましあいながらこの学校を乗り越えてきました。

☆自主ゼミ☆

9月 2/9/19/22/ 10月 1/9/16/31/ 11月 7/12/13/ 12月 3/8/17/ 1月 9/16/27

自主ゼミでは復習や課題についての討議、プレゼンの練習、ゼミ発表の相談をしました。全員の予定が合わないときは、参加者を半分に分けて二回開催する

などできるだけ全員が誰かと話ができるように配慮しました。プレゼンの練習では「パワポが上手」「財務分析が完璧!」などそれぞれの得意を活かしてアドバイスをしあい、よりよい内容へとみんなで深めていきました。たまに話がそれて「熱い思いを語る会」や「お悩み相談会」に変わったりしましたが、共感したり、事例を伝えあったりと、同じ福祉現場の仲間だからこそできる話し合いをしてきました。



☆メンバーからひと言☆

伊藤鉄也: 民主的経営と公益性をいかに法人経営の安定に繋げるか悩み葛藤した6ヶ月でした。でも意義深く楽しかった。何より温かいゼミの皆さん、先生方と一緒に取り組めたことが良かったです。

灰谷理絵: とにかく無我夢中。大人になってからこんなに無我夢中になれる機会はそんなにはないのでは…先生方はもちろんDゼミ無くしては乗り切れなかったと思います。

石橋雅人: 「研修ではなく学校です」、始めはどういう事かあまり分かりませんでした。全てが終わった時に学校だったと感じて、本当に行って良かったと思えました。

藤本有希: 地域の中で共に歩む社会福祉を学ぶ6ヶ月。その中でたくさん悩みました。ゼミの仲間、先生方が時に励ましてくれたり、時に厳しくアドバイスしてくれたことが成長に繋がりました。

村田明子: 多くの学びがあった密度の濃い半年間でした。みんなに出会えてよかった! みんなありがとう!

佐藤浩子: ゼミの仲間たち、伊藤先生、五藤先生、出逢うことができ嬉しかったです。今まで支えてくれてありがとう。これからもよろしくお願ひします。さあ新たなスタートラインに立って挑戦だ!

3. 第5期管理職養成学校受講生感想文(全課程)

■アンケートの質問項目

1. 管理職養成学校を受講した理由
2. 受講前の時点で自覚していた自らの課題
3. 2を含め、受講期間を通じて、自ら変容(成長)できたこと
4. 受講期間中、特に印象的だったこと
5. その他 ex.)受講を検討している方に伝えておきたいこと、

【ゼミ名】

ゆいまーる

コスモス会 大橋保育園 草場 慎一

次年度より公立保育園を移譲され、2施設の運営をしていくことになりましたので、将来的な運営についてや経営的なことを学ばないといけないと感じ、大変になることはわかっていましたが、受講することに決めました。

私は財務面のことに関しては理事長や事務職員にまかせていたこともあり、知識も経験も足りないと思っていました。将来的な計画の立て方、運営の仕方なども不安がありました。今回、養成学校を受講して財務面のことに関しても勉強になりましたが、他にも社会福祉法人としての役割や職員と話し合って計画をたてることなどが大きな学びとなりました。そしてゼミの仲間と一緒にこれらの課題を乗り越えてこられたのが一番の財産になりました。業種を超えていろんな考え方を学ぶことができ、しんどいときには励まし合えたことがなにより大きかったと思います。とてもしんどい半年間でしたが、それ以上の学びがありました。ありがとうございました。

穂積福祉会 なかよしわんぱく保育園 小山 明日美

私が管理職養成学校に参加したのは、園長から勧められた事がきっかけです。前年度の途中から副園長が不在となり、業務での不安も大きく、自分ができる事を増やさなければ、保育園や園長を支えられないという危機感が大きかったように思います。普通の研修とは違ってゼミで話をする時間が多いという事で、一緒に学ぶ集団の中で、自分がどれだけ周りの人の事を感じて共に学ぶ場を作っていけるかという事が課題だと思っていました。私自身、職場の

中で意見をいうと、良くも悪くも、みんなを巻き込んでしまう所があり「みんなの意見で作っていく」という事が自分の課題だと感じていました。

養成学校の期間、自園の職員集団に対して悩み続け、学校の課題に追われて必死な毎日でした。自分が精一杯になってしまっていた分、「ゼミの中で自分の役割を果たさねば！」と気負う余裕もありませんでした。(最初自分がそんな役割を担おうと思っていたとは、なんとおこがましい事か…振り返りながら恥ずかしさでいっぱいです)最終的にはゼミに何も持たずに参加し、みんなのプレゼンから学び、ヒントを得、ベそベそ弱音を吐き…と、完全に足を引っ張る存在になっていました。でも、そんな恥ずかしい私をゼミの皆さんは「よく頑張ってるよ」「それでいいやん」と肯定し続けてくれました。この養成学校に参加しての一番の成長は、自分の出来なさ、弱さに気づけた事、そしてそれでも肯定してくれる人の存在に救われたことです。

この学校で特に印象に残っているのは、やはり障害分野の方たちとの出会いです。目の前にいる人の人権を徹底して保障しようとする姿勢がまず、衝撃的でした。人権を保障できないのなら、社会・制度が間違っている！とブレることなく運動を進める姿に心が震え「福祉」の根幹に触れた気がしました。また、「社会福祉法人」の価値についての講座も、目からウロコの連続で感動しました。福祉職場で働くにあたって、福祉職場の在り方や、理想を明確に教えてもらった事は、本当に貴重な学びでした。

これから管理職養成学校を受講される方も、きっと今までにない、新しい事を知れる期間になると思います。そしてきっと、自分に向き合う大事な時間になると思います。そう確信を持って言えるのは、自分一人の力ではなく、ゼミの仲間、一緒に養成学校で学ぶ仲間たちの存在があるからです。「一人では到底成し遂げられない事も、人と支え合い、人と語り合い、知恵を交わす事で、乗り越えられる。人に支えられながら乗り越える事は、一人で乗り越える事よりも、ずっと価値のある事だ。」そう思える今の自分を嬉しく思います。

よさのうみ福祉会 みやづ作業所 西垣 幸子

管理職養成学校には、法人事務局からすすめられ、スキルアップのため入校しました。

私は、自分の頭に描いていることを上手く整理し話す事や語彙力のなさ、発想力の乏しさを感じていました。また、管理者として必要な財務の理解、視点にも欠けていました。

この養成学校の中で、知識が増えた事はもちろんですが、視野が広がり、物事の捉え方も変わりました。また、毎回のプレゼンでは、頭の中に描いている事を言語化する事で、整理する力が徐々についてきたように思います。それは、自己理解にもつながりました。このように成長できたのは、ゆいまーるの仲間の存在があったからです。様々なものを抱えながら、よりよい社会福祉の実現に向けて努めている、そのような仲間達と出会えたからこそ、苦しさも共感でき、前に進むことができました。この学校を通してつながり、かけがえのない仲間という宝物を得ることができました。

受講を悩まれている方へは、この学校はスキルアップだけではなく、自分と向き合うことができるなど得るものがとても大きいです。ぜひ、チャレンジしてほしいと伝えたいです。

エゼル福祉会 VOLO(ヴォーロ) 溝口 愛

既に受講していた他法人の方から管理職養成学校について教えていただき、理事長の勧めで受講しました。上司の退職が相次ぐ中で、訳もわからないまま管理者となり、自分の中で「名ばかり」感が拭えず自信がないまま続けてきていたので、自分を広げる機会にしたいという期待もありました。

受講期間中、印象に残っているのはゼミ活動と航海日誌のやりとりです。航海日誌は自分を振り返る機会になり、返してもらったコメントにとっても励まされ時には涙しました。また、ゼミで話す中で「こうあるべき」と無意識のうちにがちがちに固まっていることに気が付き、私自身が何をどう感じ、どう考えるか、それを言葉にすることがとても苦手なことだと自覚しました。どこかで気づいてはいたけれど認めたくなかった自分の弱さに向き合い、それをそのまま受け止めてもらえるゼミのメンバー、先生との出会いが一番の宝物です。

受講はとても大変ですが、大変だからこそこでしか得られないものが本当にたくさんあります。今後受けられる方も必ず仲間と共に乗り越えていけるとと思います。

ピヨピヨの会 ピヨピヨ保育園 柴田 さゆみ

理事になった時に「これに行くといいよ」と理事長に言われ、軽い気持ちで受講を決めました。ところが、初回の顔合わせで担任の先生から「航海」の話聞き、「後悔」しました。

私は自分の感覚を信じ大切にそこに文献や学んだこととはめ込み知識として保育してきました。論理的な思考の方とは真逆なのでぶつかったりずれを感じることがあり、そこを埋めたいと思っていたので、ちょっと頑張る事に。ところがこの航海、ちょっとの頑張りでは進まず、いっぱい頑張らないと。。。でも感覚でしかやってこなかった私には方法がわからず、その時に「力」になったのがゼミの仲間と的確な助言をしてくれる担任の先生方。私の知らない“自分の良さ”に灯りを当ててくれ、どこを深めどこを求めればいいのか舵取りをしてくれました。それこそ“ゆいま～る”です！！

「人の心を動かす」プレゼンが保育の場でどんなに大切かを実感し、子どもに伝える時、保護者や職員に肝心な話をしなきゃいけない時にこの言葉が私の心の中でつぶやいています。

秋篠茜会 あかね保育園 桂 幸子

管理者養成学校を受講した理由は、他事業所の管理職の方や園長先生から勧められたことがきっかけでした。入校時は管理職になったばかりで、財務の知識もなく、これから自分がどの立ち位置でどう判断すればよいのか、今後どうしていきたいのか明確な課題さえも分からず、このままやっていけるのだろかと不安ばかりのスタートでした。

受講を通じて、社会福祉法人の役割や地域における園の役割を学び、視野が大きく広がり取り組むべきことが具体的に見えてきました。そして何より、ゼミで仲間と語り合う中で、一人で頑張らなくてもよいこと、話すことで気持ちや考えを手放していく大切さを実感しました。これは、この養成学校での人との出会いがなければ、得られなかった学びです。常に自分と向き合い、問い続けた半年間だったと思います。荒波にもまれる大変な航海でしたが、今振り返ると、最高の航海でした。

管理職として不安を感じている方にこそ、自分を客観視し、視野を広げる機会として受講を勧めたいです。悩みながらも、「それでも仲間がいるから大丈夫」と思える力がきっと得られると思います。

BTF(ベア・ザ・フューチャー)

やまがた市民福祉会 あかしゃ共生苑 佐藤 慎次

管理職でありながら、「社会福祉」や「財務状況」を自身の言葉で語れないことに課題を感じていました。日々業務に向き合う中で、本質を掴みきれずに語っているのではという危機感が生まれ、外部の視点で学びたいと自ら受講を決めました。(上司の命令と言っていましたが…)半年間の学びを通じて、忙しくても学ぶ姿勢が身につく、志の高い仲間との議論を経て、自法人と社会福祉全体を語る視点を獲得ことができました。特に印象に残ったのは、自主ゼミや現地視察です。受け身ではなく自ら学び考え伝える姿勢、そして支え合う仲間の存在が、学びを何倍にも深めてくれました。学びの深さは、どれだけ本気で向き合うかで変わっていきます。本気で自分を変えたいと願う方には、ぜひ飛び込んでほしいと思います。

福育会 やおぎ保育園 富安 示和子

1. 園のために私ができることがあればやっていきたい気持ちと期待に応えたい気持ちで受講しました。
2. 自分の気持ちを伝えることが苦手で感情的になるところ。自信のないところ。
3. 思いをまとめて伝えたり相手の言葉を理解しながら聞くことのコツがわかった。
4. 誰に対しても否定的ではなく受け止めて下さる事務局メンバーの志。気づかせてくれるこえかけや導き。
5. 大変な航海になることは間違いないけど絶対に乗り越えられる。その先には自分にしか見えない景色がある。

アイアイハウス 紫竹アイアイハウス 福原 友佳

1. 今年度から総合施設長となり、管理職としての必要なスキルを身につけたいということ。今の自分にとって、知識だけでなく考え方も含め、まずは学ぶことが大切だと思い受講を決めました。
2. 社会情勢や社会福祉に関する様々な知識不足や、法人が抱えている課題の理解はあってもそれが何か明確に捉えられていなかった。
3. 法人としての課題が少しずつ見えるようになり、実際に管理職間でどう解決していけばいいか話し合うことや共有することができました。経営面はもちろんですが、人材不足や育成をどう解決していくか、地域社会とのつながりの意味など具体的に自分の考えを伝えることができたこと。
4. ゼミでの深め合いと、支え合いの時間。ゼミがなかったらこの学校を乗り越えられなかったと実感しました。このゼミという仕組みは、職場での職員集団、チームワークに繋がることだと思いました。
5. 大変過酷な学校ですが「学びは人生の最大の喜び」だと開校式で聞き、今はその意味を深く捉え、体感できた時間でした。通常業務との両立はかなりの負担が生じましたが、終わった今はやり遂げられたという達成感と充実感で満ち溢れています。管理職の方だけでなく管理職を担っていくこれからの方もぜひこの学校を受講した方が自分自身のためになる。法人のためになると私は確信しました。
6. 全体の感想
始まる前学校の中身を知った瞬間「仕事と学校の両立ができるのか」と不安な気持ちになり、申し込んだことを後悔したのが正直な気持ちでした。やるしかないか…諦めの気持ちからのそんなスタートでしたが、ゼミメンバーと共に悩み励まし合いながらゼミの時間がとても有意義な時間となり乗り越えることができました。学校の最大の課題である講座ごと

の「プレゼン」発表は 5 カ月間の苦しみでした。でもこのような機会がなかったらこのスキルを身につけることはできなかったと思います。「やればできる」私の学びです。

ひまわり福祉会 古志ひまわり保育園 松井 智里

管理職養成学校には、「大変だけど、やったら勉強になるよ」と背中を押され参加しました。実は三年前、前理事長から勧められていましたが、園長一年目の自分には無理だと断り、二年目には病気で断念。三度目にしてようやく覚悟を決め、受講となりました。

受講前、私は法人理念や会計について十分に向き合ってきませんでした。理念が分からない理由を環境のせいにし、自ら学ぼうとしてこなかったことに、この学校で初めて気づきました。記念誌や過去の資料を読み、先人が地域と丁寧に関係を築いてきた積み重ねの上に今があることを知り、その重みを実感しました。

課題や自主ゼミは決して楽ではありませんでしたが、仲間や担任の先生方の存在が支えとなり、深く自分を問い続ける時間となりました。講師の言葉には、福祉と次世代への「伝承」への強い思いが込められており、胸を打たれました。支えてくれた職場や理事長への感謝とともに、この学びを今後の実践につなげていきたい。そしてやっぱり“大変だけど、やったら勉強になるよ”と次の人にも伝えていきたいと思います

さやまヶ丘保育の会 あかねの虹保育園 鈴木 早紀子

私が管理職学校の話聞いたのは7月の事。8月の入学式まで残り1カ月。そもそも私は主任になってまだ3年目だし、『管理職』という言葉がまったくぴんと来ていませんでした。学校の内容も見ただけで吐きそうになったし、仕事と育児の両立を考えただけで無理だと思いました。その中で、法人とも沢山話し、家族とも話をしていく中で自分のスキルアップのチャンスでもあるなと少しずつ考えが、「やってみよう」に変わっていき受講を決めました。私の課題は明確で主任という立場での仕事が全くできていない事。先にも述べましたが『管理職ではない』と言い切ってしまうくらいです。本当はもっと職員と向き合って、園長との関係づくりもしていかななくてはならないのに。中々話ができない園長と私の関係が職員集団を希薄にしているのは明白なのに、どこから何をしていけばいいのか悩むばかりでした。その中で受講は少しずつ私の意識を変えていき、主任としてよりよい職員の間関係を作っていくように考えるようになりました。何より、虹保育園が大切。みんなでもっといい保育園にしていきたい。地域とも繋がっていきたい。もっと前向きに物事をとらえていこうと考えるようになりました。受講していて一番印象に残っていることは、「ゼミ」です。初めはそれが憂鬱？で、知らない人たちとしかも ZOOM 上で。更には皆さんすでに園長や施設長。場数を踏んできている人たちに囲まれて、私みたいな人が混ざって何かを発言する勇気もない。自信もない。でも、皆私をしっかり仲

間として見てくれました。私の話を聞いてくれました。だから安心してゼミに参加できるようになり、気づいたらゼミがなくては課題をこなせないくらい大事な時間になっていました。課題だけでなく、仕事の話をしたり、時には飲み会でリフレッシュしたり。分野は違うけど、話し合いの場は何を話しても否定されない、こうしてみたら？と一緒に考えてくれる安心感がありました。これがまさに私が今の職場に欲しい関係性です。養成学校にいく機会をくださった法人と、背中を押してくれた家族、支えてくれた職場のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。もしも受講を悩んでいる方がいたら、『やってみよう』『絶対一人にならないから』『大切な仲間に出会えるから』と伝えたいです。私も学んだことを少しずつ職場に返していけるよう、次のステージで頑張りたいと思います。ありがとうございました。

緑の丘福祉会 ののかぜ保育園 新城 直世

1. 管理職養成学校については、受講された方から「非常に質の高い研修である」と伺い、以前から機会があれば挑戦したいと考えていました。園長業務に携わるようになってからは、「毎年何か一つ新しい挑戦をする」ことを自らの目標として取り組んできました。園長就任3年目を迎えた今年、改めて自分の弱みと向き合い、苦手意識のあった労務管理や社会福祉経営について体系的に学び、それを強みに変えていきたいと考え受講を決意しました。また、経営の担い手として「見極める力」「見通す力」を養い、その学びを法人へ還元したいという思いも大きな動機でした。さらに、全国の福祉分野の管理職の方々と交流し、視野を広げたいという期待もありました。

2. 受験前に強く自覚していた課題は、労務管理や財務分析など、経営に関わる分野への苦手意識でした。特に数字を見ることに対して拒否反応があり、財務諸表から経営状況を読み取る力が十分ではないと感じていました。また、管理職として必要な感情のコントロール、特に「怒りの感情の制御」についても課題を感じていました。職員や保護者の安心・信頼を守る立場にある以上、感情の扱いは重要な経営スキルであると理解しながらも、まだ未熟さを自覚していました。さらに、「権利を守る社会福祉」という言葉は若い頃から大切にしてきましたが、現場職員として考える社会福祉と、管理職として考える社会福祉との間にギャップを感じ、その整理ができていないことも自らの課題でした。

3. 受講を通じて最も大きく変わったのは、「管理者としての能力は獲得できる」という視点を持たれたことです。とりわけ「管理者に必要なものの見方・考え方・感情の制御」や「管理者に必要な能力」について学ぶ中で、自分の弱さこそが伸ばすべき力であると前向きに捉えられるようになりました。財務分析についても、予習をして主体的にゼミへ参加することで、少しずつ数字から状況を読み取る力がついてきたと実感しています。好きではない分野であっても、向き合い続けることで理解が深まり、経営者としての視座が広がりました。また、改善プランの検討で

は、0歳児入所につなげる取り組みや他園との合同研修、SNSやホームページを活用した情報発信など、具体的な施策を提案できたことも自信につながりました。園長の過重労働の課題についても、業務の見える化や専門職との役割分担の必要性を再認識し、法人全体の課題として考える視点を持てるようになりました。

4. 特に印象的だったのは、講義の合間に必ず設けられていたグループワークです。インプットとアウトプットを繰り返しながら学ぶことで、一つひとつの内容を確実に自分の中に落とし込むことができました。ゼミでは、互いの人となりを理解した仲間と率直に意見を交わすことができ、分からないことも正直に共有できました。その経験を通して、学び合う場の大切さを改めて実感しました。また、分野は違っても同じ福祉業界で管理職を担う方々と交流できたことは大きな財産です。保育という枠を超えて社会福祉全体を俯瞰する視点が得られ、視野が大きく広がりました。

5. 管理職養成学校は、自分の弱みと正面から向き合う機会を与えてくれる場です。苦手な分野であっても、逃げずに取り組むことで確実に力になります。また、「権利を守る社会福祉」という理念を、現場職員としてではなく、経営を担う立場から問い直すことができます。日本社会の中で、なぜ弱い立場にある人が生きにくいのか。その構造に目を向け、福祉に携わる者として何ができるのかを深く考える機会にもなります。私自身は、保育園に通っていない親子の居場所づくりや、生活困窮世帯の子どもたちを支える子ども食堂の充実など、地域に根ざした取り組みをさらに進めていきたいと考えています。そして、法人の中長期計画や自園の将来構想づくりに学びを生かし、地域とともに安心して暮らせる社会づくりに貢献していきたいと思えます。管理職として成長したいと願う方にとって、本校は大きな転機となる学びの場であると心からお伝えしたいです。

NOBISHIRO

わかすぎの森 やまのこ保育園 伊藤 奈美

急遽、園運営に携わる立場となり、正直なところ管理職としての自覚や明確な目的意識が十分にある状態ではなく、日々の業務に追われ不安を抱えながらのスタートでした。そこで、管理職としての在り方や考え方について学びたいと思い、管理職養成学校を受講しました。受講前は、園運営や法人運営、財務や地域との関係性について深く考える余裕が無く、自身の課題を整理できていないと感じていました。講義や現地研修、自主ゼミを通して、子ども・保護者・職員にとって何が大切か、社会福祉法人として地域の中で果たすべき役割を考える視点が広がりました。また、管理職は法人理念、ビジョン持ち、職員と利用者と共に考え、園づくりを進めていく姿勢と実践していくことの大切さを実感しました。課題に心折れそうになりましたが、ゼ

ミの仲間や担任の存在は心強く、仲間との支えの中で航海を乗り越え、自分自身と向き合う力が育った半年間だったと思います。ぜひ、迷っている方にも、全国の仲間と学び合える「一人ではない学びの場」があることを感じてもらいたいと思います。

静岡福祉会 小規模みつばち保育園 望月 謙吾

1. 管理職養成学校を受講した理由
法人の進めもあり受講しました。施設の園長も受講していたのを見ていて、自分の苦手分野の財務も学べると感じ、即受講を決断しました。
2. 受講前に自覚していた自らの課題
財務であったり、法人運営にあたり自分自身が今の現状を知ること、さまざまな課題を自覚して受講しました。
3. 受講期間を通じて、自ら変容できたこと
法人運営にあたり学びを深めたことで、自分からの発信をできるようになったこと。
民主的な運営、社会福祉とはについて他分野の職種の方々と学びを深められたことが大きかった。保育だけでなく「社会福祉」の視点で様々な事を考えられるようになりました。
4. 受講期間中、特に印象的だったこと
生きるということ！「共生」というワードが自分の心に響きました。1人でなく、共に助けあいながら、頼って頼られて生きていく。そして、この社会がもっと「社会福祉」の心を繋いでいけるようにと思わせてくれた期間でした。
5. 受講を検討している方に伝えておきたいこと
成長できること間違いない。素敵な仲間！出会いがあります。不安もあるかも知れませんが、卒業した時「やってよかった！」と感動があじわえます。思いついたら、進められたら是非！！あなたは法人で「選ばれしもの」なのです。

おりづる おりづる作業所 鶴山 祐子

管理職養成学校を受講した理由は、管理者から「これからのためにたくさんのことが学べる場だよ。全国に仲間をたくさん作っておいで！」と勧められたことがきっかけでした。

受講前は、自分が法人全体のことを考えていく役割を担っているという自覚がなく、特に財務などの視点などを持つことができていませんでした。また、他の人に自分の思いをわかりやすく伝えることや瞬発力がないことが課題だと感じていました。

半年間の受講を通して、改めて法人のこれまでや自分が描く先のイメージを自分の言葉で伝えていくことの大切さを学びました。また、自分が大切にしたいことに取り組むためには、

周りの人と協力し、時には自分が引っ張っていけるように意見をまとめることなど、自分の中の変化もありました。特に印象に残っているのは、ゼミメンバーで課題に取り組んだ日々です。お揃いの NOBISHIRO T シャツをみんなで着て、それぞれの熱い思いを胸に意見を出し合えた仲間の存在は大きかったです。本当にありがとうございました。

一人ではなく、たくさんの仲間と一緒に学びを深めることができる貴重な機会なので、ぜひ自分らしくがんばってください。

こぼと会 さくらんぼ保育園 江村 純子

法人で順に受講しており、自分も勧められ受講することになりました。日々の業務との両立が出来るか？学校の授業についていけるか？運営や財務について自分の言葉で語れるのか？自身の課題はたくさんあり、不安でしかありませんでした。噂に聞いていただけあり大変な航海でしたが、その学びの中で視野が広がり、ぼんやりしていたものがクリアになったように感じます。課題の向き合い方や自分が伝えたいことははっきりして自信に繋がりました。無事修了できたのは、ゼミメンバーや担任の先生の支えが大きいです。学校は、学びの場だけでなく仲間づくりの場でもあると実感しています。物理的な忙しさに、正直後ろ向きな気持ちになることもありましたが、一緒に頑張っている仲間がいるという心強さが前向きにしてくれました。たくさんの学びと出会いに感謝です。ありがとうございました。

宮城厚生福祉会 デイサービスセンターくりこまの里 伊藤 紀江

管理者会議にて 2025 年度管理者養成学校の受講希望者を募っておりました。一昨年は介護事業所から昨年は保育から…「次、どうですか」と声を掛けられ受講に至りました。前受講者より「プレゼン」「原稿を覚える」「忙しい」というお話を聞いていたため、「苦手分野に足を踏み入れる…どうしよう…」という不安でいっぱいでした。自分の課題は「分析力」「行動力」「伝える力」が不足している事でした。

課題の一つ目「分析力」は第 1 講座での「自己分析」自分の強み・弱みを改めて知り弱みの改善に取り組む事が出来ました。また、第 5 講座での SWOT 分析表を用いた中長期計画作成では「SWOT 分析表」を初めて作成し見えなかった事業所の課題ややるべき事が正確に分析できました。職責を交える事で事業所全体に我が事として捉えられたと感じました。

二つ目の「行動力」は第 3 講座での青木理事長や塩野社長のお話を聞き、地域に出る事・事業所の動向を見える化を学び実行していこうと決意出来た事でした。さらに、対面だったためゼミメンバーはもちろん受講生全員に会えたことはとても嬉しく印象深い日となりました。

三つ目は「伝える力」は養成学校を通して、聞いている人にどう伝えるか、どう動いてもらえ

るかを考えながら発言するを学び今後も活かしていこうと思いました。

最後に、この半年間「忙しい」「大変」はたくさんありましたが、ゼミメンバー「NOBISHIRO」と担任が居てくれたから頑張れました。これから、受講する管理者が事業所から居るならば応援したいと思います。

さざんか福祉会 だろんこベビー園 南 智子

管理職養成学校を受講したきっかけは、園長からの勧めでした。正直なところ、受講前は自分にできるのだろうかという不安が大きく、自分の考えをまとめて人前で話すことも 苦手で、保育の実践以外、特に財務や運営についてはほとんど知識がない状態でした。しかしこの半年間を通して、法人理念に改めて向き合い、保育と運営、財務がつながっていることを学ぶ中で、これまで見ていなかった視点を持てるようになったと感じています。まだ管理者になるには十分とは言えませんが、自分なりに考え、言葉にし、伝える経験を重ねてきたことで、少しずつ成長できた実感があります。特に印象に残っているのは、ゼミメンバーとのつながりです。互いに励まし合い、悩みを共有しながら学べたことは、大きな支えとなりました。初めは不安しかありませんでしたが、終わってみるとあの時園長の勧めを受けて本当によかったと思っています。これから受講を検討している方には、不安があっても一歩踏み出すことで、必ず得られる学びや人との繋がりがあると伝えたいです。

チームわくわく Dream☆Diary

あゆみ会 法人本部 佐藤 浩子

管理職養成学校を受講した理由は、これまで管理職としての経験がなく、今年度からその役割を担う中で、自分に本当に必要な視点や判断力を身につけられるのかという不安を強く感じたからです。受講前は、日々の業務や目の前の課題への対応に追われ、中長期的な視点で物事を考える力や、職員一人ひとりと向き合う関わり方に不安がありました。受講を通じて、組織全体を広い視野で考える大切さや、自身の考えを言葉にして伝える力を学びました。また、対話を通じて職員一人ひとりに寄り添い、向き合いながら共に成長し、人を育てていく管理職としての姿勢を学ぶことができました。さらに、他法人の管理職の考えや悩みに触れたことは、自分自身を見つめ直す大きな刺激となりました。

次に受講される方には、迷いや不安を抱えたままで構わないので、素直な気持ちで学びに向き合い、その学びをぜひ現場で生かしてほしいと思います。一人ではなく、共に支え合える仲間たちがいます。

はとのさと福祉会 第2 はとのさと保育園 藤本 有希

「次の順番は藤本先生かな～」の一言で管理職養成学校の受講が決まりました。正直、嫌でした。その大きな理由の一つに法人内異動もあり不安があったことです。そして、去年受講した職員の大変な姿も見てきたので更に不安倍増でした。しかし、「大変だけど学びも大きい、何より仲間ができるから大丈夫！」と背中を押してもらい受講を決めました。その為、やる気は50%スタートでした。

受講前の自らの課題は、目の前のことに追われ全体の把握が出来ていない、職員へどのように伝え共有できるか、でした。

プレゼン作成を通し、私の言葉は抽象的で具体的ではない。ということが見えてきました。ゼミの仲間から「その思いや考えを具体的にするともっと相手に伝わりやすくなる。」と助言をもらい、受講生のプレゼンを聞くと自分の課題がどんどん明確になっていきました。課題が明確になると取り組みやすかったです。自施設の来年度事業計画を作成した時、理事長に「今までと書き方が違って具体的になっているけど何かあった？」と言われました。その一言が凄く嬉しかったのと同時に管理職養成学校で学んだことが活かされたと思いました。

よさのうみでの一泊研修は本当に刺激ある時間で地域の中で共に過ごすこと、福祉とは何か、ということを実際みて感じることができました。この経験を実践に活かしていけるようにしていきます。

スタートはやる気 50%、ゴールした時は 120%。この達成感は仲間がいたから！この繋がりをこれからも大事にし、仲間に出会えたことに感謝、送り出してくれた法人に感謝、このような気持ちにさせてくれる学校でした。

いずみ野福祉会 岸和田障害者共同作業所 石橋 雅人

自分が自主的に学ぶことが弱いので、学ぶ環境の中に身を置いて管理職として必要な事を身に付けたいと思い、薦められてですが管理職養成学校に申し込みました。事業所をまとめて進めていくことに自信が持てない中で、社会福祉法人とは何か、大切にしなければいけない事は何か、毎回の講座の中で養成学校の仲間やゼミの仲間と一緒に学び考え、講座が無い時も時には一人で時にはゼミの仲間と一緒にしっかりと考えて学びを続ける事で、社会福祉の仕事をするうえで必要なことが身に付いてきました。そして、それが今まで経験したことや先輩職員から聞いていたことと繋がっていくことが、不思議な感じであり嬉しくも思いました。

管理職養成学校がしんどいや大変と聞いている人もいるかもしれませんが、それよりも社会福祉の仕事をしていくために必要なことが身に付きプラスになることだらけで、本当に管理職養成学校で学べて良かったです！ぜひ学校へ行ってみてください！

みつばち会 みつばち保育園 灰谷 理絵

理事長より「灰谷さん、行ってらっしゃい！大変みたいだけど…」いつもの満面の笑顔で勧めて頂きました。視野を広げられる良い機会になるのでは、という期待がありました。管理職という自覚はなく現場担当リーダーとしての役割の中で働いていた私は、第1講座のプレゼン“管理職としての私を語る”からかなりの衝撃でした。社会福祉法人の職員であるという視点や責任も十分に持てていませんでした。

このように、0からのスタートだった私でしたが、学校を終えた今は管理職として、そして社会福祉法人の一員としての役割と責任が明確になり、組織の将来を見据えた展望や具体的な取り組みの道筋を描けるようになりました。特に印象に残っていることは、管理職養成学校で講義をして頂いた先生すべての方々から熱い情熱とエネルギーを感じたことです。そして、日本全国に同じ志を持ち、懸命に取り組んでいる仲間がいることを知り、大きな励みと心強さを得ることができました。そして、ゼミの先生と仲間とともに切磋琢磨してきたことは忘れません。

みなと福祉会 うろじの家 村田 明子

わたしは法人からの勧めで何をするかもわからないまま受講しました。財務や運営(制度等)についての知識がなく、学ばないといけないと思いつつも苦手意識から手を付けられずにいましたがこの学校で財務や運営についてどう分析していくのか、どのような視点で考えるのかが少しわかるようになりました。また、社会福祉法人の役割、地域との関わりなど今まで自分に足りなかった視点(自分の課題だと気づいてもいなかった)を学ぶことができました。そしてゼミメイトとの出会いもとても大きかったです。住んでる場所も働く環境も違うけど、同じ志を持つ仲間がいることがこんなに心強く感じるとは想像していませんでした。

また、社会福祉法人としての役割や責任を意識できるようになったのはすごく大きな変化だと思います。私のように財務や中期計画などに苦手意識のある方も多いと思います。そこに正面から向き合えないといけないのでしんどいこともあります。ただ難しいだけでなく、楽しい、もっと知りたい！という気持ちにもなり、自分の成長を実感できる研修(学校)だと思います。

大阪聴覚障害者福祉会 法人本部 伊藤 鉄也

法人の会議で拠点長から養成学校への話があり、どういうものか分からないまま入学することになりました。管理職として体系的に何かを学んだことがなかったので、私としても大変

楽しみではありましたが、ただ、どれだけ時間をとれるか不安はありました。

私は法人本部で会計財務を担当していますので、法人収支の改善をどう実現するか、管理職とどう共有して実現していくか、日々考えていたのでこの学校でのプレゼン、「人を動かすこと」は大変勉強になりました。以前は、どうすれば分かりやすく説明できるかは考えていましたが、その先の、どう動かすか、社会福祉法人としての役割まではおよんでいませんでした。学校を通じて、具体的に話す対象、場所を想定して、プレゼンの先を考えられるようになりました。

私が一番印象的だったのは、垣内先生の社会福祉法人の強みの話で、理念として純粋性を体現している「純粋性」という言葉です。最初はその意味が分かりませんでしたが、先生の造語で、この仕事を選んだ自身の本質的な資質(困っている人がいれば助けたい等)と聞き深く共感致し、人に伝えたりもしています。

1つの課題を深掘りして文字に起こし伝え人を動かすことは、今後、様々な場面で仕事を楽しくさせると思います。半年間ありがとうございました。

4.2025年度管理職養成学校ゼミ編成

通番	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
1	1	A 草場 慎一	コスモス会	大橋保育園	園長	保育
	2	A 小山 明日美	穂積福祉会	なかよしわんぱく保育園	主任	保育
	3	A 西垣 幸子	よさのうみ福祉会	みやづ作業所	管理者	障害
	4	A 溝口 愛	エゼル福祉会	VOLO(ヴォーロ)	施設長	障害
	5	A 柴田 さゆみ	ピヨピヨの会	ピヨピヨ保育園	主任・理事	保育
	6	A 桂 幸子	秋篠菫会	あかね保育園	副園長	保育
I	担任	西田 健太	多摩福祉会	砧保育園		
	担任	関口 奈緒美	ふたかみ福祉会	大西記念センター		
II	担任	黒田 博美	結い	ワークハウス・ワクワク!		
	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
7	1	B 佐藤 慎次	やまがた市民福祉会	あかしや共生苑	部長(副施設長)	高齢
	2	B 富安 示和子	福育会	やおぎ保育園	副主任	保育
	3	B 福原 友佳	アイアイハウス	紫竹アイアイハウス	施設長・法人統括責任者	障害
	4	B 松井 智里	ひまわり福祉会	古志ひまわり保育園	園長	保育
	5	B 鈴木 早紀子	さやまが丘保育の会	あかねの虹保育園	主任	保育
	6	B 新城 直世	緑の丘福祉会	ののかぜ保育園	園長	保育
I	担任	萩原 哲平	頓野児童福祉会	下境保育園		
II	担任	寺田 恒	大阪福祉事業財団	本部		
	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
13	1	C 伊藤 奈美	わかすぎの森	やまのこ保育園	施設長	保育
	2	C 望月 謙吾	静岡福祉会	小規模みつばち保育園	主任	保育
	3	C 鶴山 祐子	おりづる	おりづる作業所	副主任	障害
	4	C 江村 純子	こばと会	さくらんぼ保育園	園長	保育
	5	C 伊藤 紀江	宮城厚生福祉会	デイサービスセンターくりこまの里	施設長	高齢
	6	C 南 智子	さざんか福祉会	どろんこベビー園	主任	保育
I	担任	仁木 悟	さつき福祉会	あいほうぶ吹田		
II	担任	吉川 継史	愛児福祉会	法人本部		
	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
19	1	D 佐藤 浩子	あゆみ会	法人本部	理事	保育
	2	D 藤本 有希	はとのさと福祉会	第2はとのさと保育園	園長	保育
	3	D 石橋 雅人	いずみ野福祉会	岸和田障害者共同作業所	管理者	障害
	4	D 灰谷 理絵	みつばち会	みつばち保育園	副園長	保育
	5	D 村田 明子	みなと福祉会	うろじの家	副所長	障害
	6	D 伊藤 鉄也	大阪聴覚障害者福祉会	法人本部	法人本部事務局次長	障害
I	担任	伊藤 輝人	名古屋キリスト教社会館	発達児童センターあつた		
II	担任	五藤 清子	さざんか福祉会	どろんこ保育園		

5. ディプロマポリシー

社会福祉経営全国会議 管理職養成学校ディプロマポリシー

管理職養成学校は、権利としての社会福祉を追求する民主的法人経営の担い手づくりを目指し、地域要求を見極める力、先を見通す力、経営戦略を組み立てる力、実行する力を育てます。そのために、受講生が修得すべき力をディプロマ・ポリシー(修了の基準)として以下のように定めます。

★ 知識・技術 — 総合的判断力を養うために蓄積すべき力

- ・ 社会福祉法人を取り巻く情勢について、歴史や現状分析を通して理解します。
- ・ 自法人の経営課題を理解したうえで、他法人・他業種の経営状況についても学び、社会福祉経営に関する識見を深めます。
- ・ プレゼンテーションを通して自分自身の言葉で「わかりやすく伝える」「理解を促す」「相手の心を動かす」技術を身につけます。

★ 共感力・発信力 — 多様な人々との交流を通じて、他者の考えを受け止め、自らを表現する力

- ・ 他法人の管理者とのネットワーク構築に努め、よりよい社会福祉経営実践に活かします。
- ・ 「共感し合う」「意見を引き出す」「意図を伝える」など、コミュニケーションを通じて、組織の方向性を導き出します。
- ・ 地域住民や企業を含む諸団体との共同により、新たな福祉ニーズを耕し、必要な社会資源創出に努めます。

★ 思考力・判断力 — 自組織や地域の課題を多面的に捉え、創造的に考える力

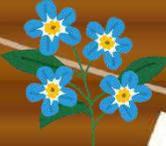
- ・ 社会福祉法人を取り巻く情勢の現状に対して、自身や自法人が何をすべきか分析し、どのような変容が必要か判断します。
- ・ 他法人や他業種からの学びを基にして、自法人の財務状況を含む経営課題を分析し、組織運営に活かす力を身につけます。
- ・ 当事者や地域住民の要求を実態から捉え、その要求を根幹に据えた中長期事業計画を作成します。

★ 決断力・実行力 — 民主的法人経営の前進を目指して積極的に挑戦し、やりきる力

- ・ 個々の力を引き出し、組織的な意思決定ができるように集団を導きます。
- ・ 自法人の理念や地域福祉の観点、管理者自らの意志を反映した事業戦略を実行します。
- ・ 当事者地域や住民との共同性を礎として、権利としての社会福祉事業を推進します。

2024年1月25日 作成

Congratulations!



Congratulations!

